

記入日：令和2年5月15日

1. 事業所名（事業名）

ミラークよこすか

2. 主な対象者（知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害等）

知的障害、精神障害

3. 週間スケジュール ※時間・内容を自由に記載ください

曜日 時間	内容				
	月	火	水	木	金
9:00 ～ 12:00	電話（一部） 在宅プログラム（テキスト等）	電話（一部） 在宅プログラム（テキスト等）	通所サービス利用 在宅ワーク振り返り 在宅ワーク課題設定 事業所内トレーニング	電話（一部） 在宅プログラム（テキスト等）	電話（一部） 在宅プログラム（テキスト等）
昼食					
12:45 ～ 15:00	電話 在宅プログラム（テキスト等）	電話 在宅プログラム（テキスト等）		電話 在宅プログラム（テキスト等）	電話 在宅プログラム（テキスト等）

4. 支援内容

1) 訓練の内容 ※訓練で使用している具体的な内容をご紹介します

ツール	内容（課題の内容・使い方）	時間	結果
電話（午前）	午前の定期連絡は一部自治体在住の利用者のみ ご本人から事業所に連絡 当日の在宅トレーニング実施予定確認 体調確認	5分	概ねご本人から連絡を受けられている。 朝弱い方などは、起きられないこともあり。
電話（午後）	職員からご本人に連絡 在宅トレーニングの進捗確認 体調確認	5分～30分	概ね連絡は繋がっている。 ご本人の精神状態によっては電話が長くなることはある。
電話（都度）	在宅トレーニングでの不明点等の確認の電話	10分～15分	それほど多くはないが、何件かはある。
テキスト	ビジネスマナー、コミュニケーション、ストレスマネジメント、就職活動など	～240分	配布したものを早い段階で全て終わらせる方もいれば、モチベーションが上がらず進められな

			い方もいる。
自己理解	事業所のフォームを使い、履歴書の自己PR 等にも使える自分研究を行ってもらう。	60分 ～ 120分	就職活動を再開した際の志望動機の作成などに役立っている。
履歴書・職務経歴書作成	就職活動間近の方や就職活動中の方に作成していただく。	～ 240分	作成に非常に時間がかかる方は自宅で落ち着いて取り組み、必要に応じて電話で職員に確認ができるため、良い機会だと感じる。
新聞記事等の転記	原稿用紙へ手書きで転記	60分 ～ 120分	黙々と取り組めるためご本人のモチベーション維持に役立っている。テキストでのトレーニングが難しい状況には効果的。
文字記入練習	練習資料を使って、美しい文字を書く練習を行う	60分 ～ 120分	黙々と取り組めるためご本人のモチベーション維持に役立っている。テキストでのトレーニングが難しい状況には効果的。
テーマ研究	気になっているテーマについて調べ、まとめていただく	60分 ～ 120分	好きなテーマを設定することで、ご本人のモチベーション維持に役立っている。テキストでのトレーニングが難しい状況には効果的。
企業研究	ハローワーク等の求人情報を使い、企業研究を行う。	60分 ～ 120分	希望職種や希望条件を整理することに役立っている。
漢字ドリルなどの学習	ご本人が取り組みたい内容を実施。	60分 ～ 120分	ご本人自身の課題感により実施しているため、継続性やモチベーションの効果は非常に高い。
自宅での清掃トレーニング な等	自宅でトイレ等の清掃トレーニングを実施	60分 ～ 120分	事業所内トレーニングの手順忘れ防止に役立つ。 就職を見越したシミュレーションとして。

2) フォローアップの方法

①訓練課題

週1回～3回、個々の事情に応じて通所日を設定しています。通所時に次回来所時までの在宅トレーニングの目標設定と振り返りを行っています。

電話は住まいの自治体の方針により週数回～毎日2回。人によっては、在宅トレーニングで分からないことがあるが、都度連絡をして確認している人もいます。

②就職活動支援

就職活動中や就職活動が近い方には履歴書や職務経歴書を作成してもらっています。

緊急事態宣言中にも面接や就労開始のケースもあるので、その場合は感染防止対策を行った上で通常通り同行支援を行っています。

③生活支援

電話連絡で体調確認を行うとともに、通所の際は自宅を出る前に検温し、来所時に検温シートの提出を徹底しています。

通所スケジュールなどはグループホーム等とも調整し、場合により週 3 日程度通所としている方もいます。

生活リズムはどうしても崩れやすくなるため、在宅支援期間中の目標を設定し、意識できるようにしています。

④その他

通所自粛により利用期間内に就職ができないかもしれないと不安に思う方もいらっしゃいます。利用期間の延長については柔軟に対応していただけることになっていると思いますが、自治体によっては就労移行の支給決定そのもののハードルが非常に高くなっているところもあり、延長が認められるのか、どういう基準になるのか事業所としても不安に感じています。

5. その他

緊急事態宣言中の支援で以前よりもメールなどのツールを使う機会が増えたと感じます。

人によっては ZOOM のような機能を活用して支援をすることも可能ではないかと考える機会になりました。今後の支援においてもなるべく利用者の皆さんの使いやすいツールを導入していきたいと思っています。

また、当事業所は利用当初は週 2 日程度から利用を開始する方も多いため、通所しない日の自主トレーニングのツールとして今回の使用したものを活用できると感じています。困難な時期ではありましたが、支援の幅を広げるきっかけになったと職員間で話をしているところです。

課題としては、それらのツールでの支援で十分とわかってしまうと、利用実績に繋がらないということもあるので、事業所の経営面からするといろいろ考えさせられます。

※参考になる資料等で掲載可能なものがあれば、添付いただければと思います。よろしくお願いたします。

記入者： _____ 吉田 _____